ここ二、三年、いちご部の取り組んできたことで大きいことの一つは、育苗方法を変え、いちごの育苗の省力化と枯れる苗の率を減らせたことです。

いちごの育苗は、病気で枯れる苗が多く、うまくいくときのほうが少ない状態でした。また、育苗は重い土のトレーにいちごの苗を何万本と受けていく作業で、この先十年二十年後も今いるメンバーでこの作業が出来るだろうかと考えたときに、無理だろうと思い、高齢化対策として『誰でも、簡単に、コンパクトに、大量に』苗作りが出来るにはと試行錯誤しながらやってきました。

二〇一三年のいちごの苗は、病気で枯れる苗は少なく、いちご部から豊里ファームや交流などに送り出しながら、新緑地公園ハウスの苗二万本も問題なく定植できて、第一段階としてはクリアしたかなと思っています。

今年は第二段階として、一二月からいちごを収穫できるように、『いちごの花が咲く時期を調整できるようにする』というのをしたいです。今の省力化した育苗方法だと、どうしても花が咲くのが遅れてしまい、一二月の

収穫量が少なくなってしまいます。クリスマス、年末年始に「無いです。」と言うのは、やはりツライです。

いちごの花が咲き始める条件は、低温、短日、体内窒素の低下、と幾つかあります。

出来るだけ早く第二段階はクリアしたいのですが、二年くらいはかかるかなと思っています。

いちごは、軽作業で、足腰に負担もそれほどかからずに仕事が出来るので、リハビリ目的でも、人を受け入れていける職場にしたいです。

去年から豊里ファームが始まり、いちごを買うなら豊里ファーム、いちご狩りなら豊里いちご狩り農園だよね、と言ってもらえるようにしたいなと思います。が、「いちごが無くても、あんたに会いたくて来たという人が出てきたらほんものやなあ。」とある人から言ってもらい、まだまだ先は長いなあと思っています。

二〇一四年元旦　いちご部

新年　明けましておめでとうございます。

二〇一三年は、春日山太陽の家との交流をやってきました。

一緒にプールに入ったり、栗ひろい・みかん狩りをしたり、霊山登山に行ったり、一二月には合同の劇をやることができました。

最初はなかなかまざって遊べなかったけど、だんだんとよく遊ぶようになり、仲良くなりました。係同士もぐっと近くなりました。

二〇一四年も引き続き交流をして、さらに進んでいきたいです。

二〇一四年元旦　太陽の家

新年 明けましておめでとうございます。

産業事務所では、昨年のヤマギシの経理の研鑽会をしてから、改めて実顕地一つとは、一体経理の観点からの産業事務所の役割、何ができるか、何をすべきかについて考えるようになってきました。

産業事務所は、経理・給与・労務・渉外・電算・品質管理・土地の管理や草刈りまで、いろいろな役割の人たちが集まって職場をつくっています。その一つ一つが実顕地を陰から支える役割です。

産業事務所とは、実顕地の裏方の職場です。各職場が無ければ産業事務所は存在しない。そういう職場、そういう役割だと思います。

また、産業事務所には経理面からいろいろな情報が集まってきます。それらをただ事務処理しているだけではもったいない。真の産業事務所の役割を果たしているとは言えないのではないでしょうか。

集まってきた情報の奥にあるものを見出し、それを各職場と共有し、一緒に考え、各職場

が、また実顕地全体が進むようにやっていくことこそ、産業事務所が自らの役割を果たし、産業事務所が活かされていると言えるのではないかと思います。

昨年から、実顕地が大きく変化してきています。各職場を支える産業事務所も、それに合わせて変化が求められていると思います。

各職場の事務部門の統合や効率化、それに合わせた産業事務所の仕組みなど、考えていきたいです。

実顕地づくりを一緒にやりましょう。

二〇一四年元旦　産業事務所

一月三日の職場参観で乳牛の仔牛たちを見てもらおうと思っていますが、この場でその背景を紹介させて下さい。

今をさかのぼること一年九ヶ月前、二〇一二年四月の文化展に「乳牛育成再開します」という文章を出させてもらいました。

二〇〇九年二月から休止していた乳牛の人工授精を三年二ヶ月ぶりに再開したというお知らせと、未来の豊里の乳牛たちがこんな風に凄いことになっていきますといった内容で、育成再開の喜びと将来にむけての遠大な計画を語らせてもらいました。

その文化展の発表から八ヶ月後のことです。二〇一二年の四月四日から人工授精を始めたので、二八五日の妊娠期間を経て最初の仔牛が生まれるのは二〇一三年の一月中旬からのはずが、予定日より四〇日早い超早産の雌仔牛が二〇一二年一二月一六日未明に生まれて一頭きりの育成部門が急遽スタートしたこと、「ハナ」という名をつけて乳牛部の皆がその誕生を喜んでいる様子を、二〇一三年の正月の集いの中で話をさせてもらいました。

それから一年、この間に生まれた乳牛の雌仔牛は百六十頭を超えました。最初に生まれた仔牛たちは今や立派な娘牛になって、もうじき受精の時期を迎えようとしています。

超早産の「ハナ」も元気いっぱいで育っています。「ハナ」をはじめ、彼女に続く後継牛たちは今年の年末頃から仔牛を生み始めて、順次お母さん牛になっていく予定です。

三日の参観では、生まれて間もないホルスタインの仔牛を見てもらおうと思っています。ここは今の乳牛部の職場づくりの一端があらわれているところです。

過去に、ホルスタインの仔牛を見た人はあまりいないはずです。数人の専門の担当者しか知らない以前の仔牛はとてもデリケートで、知らない人に過剰に反応し体調を崩すので、参観を受け入れることができなかったのですが、今の仔牛たちはそうではありません。

今は乳牛部のいろんな人が、時には肉牛部からも応援に入ってもらって、皆が心を寄せていく場としてすすんできました。

技術的には格段に進歩した高度な飼育内容

でありながら、みんなでつくってみんなのものになって、そんな中でスクスク育っているのが今の乳牛の育成牛たちです。

再出発した育成部門のような感じで、職場づくり村づくりをともにすすめていく一年にしていきたいです。

二〇一四年元旦　乳牛部

新年 明けましておめでとうございます。

二〇一四年は整備工場の引越しをする予定です。

飼料センターの隣にある小型工場（主に乗用車など中くらいまでの車や、フォークリフトやショベルローダーを整備する）を、少し離れたところにある大型工場（主に大型トラックなどを整備する）へ移転して（合体して）一つの工場にします。場所は少し遠くなりますが、一つになることで仕事が効率よくなります。

また、小型工場の跡地は飼料センターとなり、現在は狭く危ないのが、広くなることで安全や防疫の面などで良くなります。

工場が一つになることで、車輌部の村人も社員さんも近くなり、心寄せて研鑽して、職場づくりを進めていきたいです。

村の車のお医者さんとして、車の健康管理（オイル交換、点検など）で不具合を早期発見して手を打てるように、腕を磨いていきたいです。

皆様も乗っていて、オイル交換時期が来て

いたり、おかしいな、故障かなと思ったら、
車輛部へつなげてください。

二〇一四年元旦　車輛運輸部

建設部では、それぞれで仕事をこなすだけの毎日にならないように、一体の職場づくりを実践していくための基を自分達で探っていこうと、「基本研」を立ち上げて毎週寄っています。

やってみて思うのは、まず、みんなが一つのテーマを共有して同じ土俵に立つまでが中々です。出されたテーマを、それぞれがこのテーマはこういうことだろうというところからいきなり具体例が出てそれで盛り上がったり、テーマそっちのけで自分の言いたい事を滔々と言いたいだけ言ったりで、テーマの確認をしてこのことを究明しようとか、時間を有効に活かそうという考えが働かない様で、スタート台に揃う前に時間切れとなることも多く、同じような繰り返しで本当の楽しい研鑽の醍醐味を味わうまでには程遠い感じです。

それでも出し合い聴き合った分は親しみも湧いて、職場としての一体感は深まりますが、それはニギリメシ状態で、モチのような離れようのない本当の一体ではないので、気を使い合う、程ほどの仲良し止まりです。

本当の研鑽が描けないから研鑽が深まらない、先が見えないから究明意欲も高まらないといった循環になっているようです。そして、あろうことか後は若いモンにやってもらったらいいなどと、もったいない声も。

一体世界の広さ自由さ、本当の研鑽の楽しさ面白さ、一体で創り上げる喜びの世界をモノにして実顕地の本当の姿を顕し、全ての人、そして愛おしい吾が子、孫への贈り物にしたいです。

それに向けて今出来ること、やるべきことを見出して、先を急がず一つ一つ咀嚼して、確実にモノにする行き方をとりたいと思います。職場でそういう意識を高めて、研鑽学校で深く検べる循環にしようという空気になってきているので、今年は楽しみです。

二〇一四年元旦　建設部